

東京西北ロータリークラブ

ベトナム（孤児院、リハビリ病院など）の視察

〔日 程〕 2026 年 1 月 27 日（火）～2 月 1 日（日）（4 泊 6 日）

〔訪問地〕 ベトナム ホーチミン市、ハノイ市

〔参加者〕 奥田陽一会員、佐々木央会員、武藤康史会員、澤本尚志会員、

小関智宏会員、林兼生会員、高橋浩明会員

〔同行者〕 認定 NPO 法人ベトナム子ども基金 樋川好美理事長、岡村多美子理事

現地 ツォンさん



【概要】

2026 年 1 月 27 日から 2 月 1 日まで、会員有志 7 名で、ベトナムのホーチミン市（1 月 27 日～28 日）とハノイ市（1 月 28 日～2 月 1 日）を訪問しました。当クラブが認定 NPO 法人ベトナム子ども基金（今回、同行）を通じて支援している孤児院（ホーチミン市内の 3 か所）、ベトナム山岳貧困地域子ども基金（ハノイの事務所）、ハノイ市リハビリ病院などを訪問し、支援物資の提供、現場の視察、質疑応答などをしました。

孤児院とリハビリ病院は、実際の支援活動を担っているベトナム米山学友会（南部：ホーチミン、北部：ハノイ）の皆さんにも同行いただきました。1 月 28 日にホーチミン市では、40 年以上、日本語学校を運営し、日本への留学生を支援してきたドンズー日本語学校のホーエー先生と面会しました。また、1 月 29 日には、ハノイ市の在ベトナムの日本大使館に、澤本会員と旧知である伊藤直樹大使を表敬訪問し、大使公邸で夕食会にお招きいただきました。

ホーチミン市とハノイ市では、それぞれ、ベトナム米山学友会のメンバーと夕食会を開催し、美味しいベトナム料理とお酒をいただきながら、交流を深めて、楽しいひと時を過ごしました。

ハノイ市では、市内観光を 1 日半いたしました。旧跡、博物館などをめぐり、ベトナムの歴史に触れることができました。各所での食事で、フォーやバインミーなどベトナムのグルメも堪能しました。



（ハノイ市内・駐ベトナム日本大使公邸での夕食会：左から 4 人目が伊藤直樹大使）

〔孤児院への訪問（ホーチミン市：3 か所）〕

1 月 27 日と 28 日に、ホーチミン市で 3 か所の孤児院を訪問しました。いずれも、小規模で路地の奥まったところにありました。米、調味料、お菓子、食器、靴下など先方の希望に応じた支援物資を提供しました。

1 月 27 日に訪問した「ソンキー孤児院」は、2004 年設立で教会が運営し、小学校 4 年生から大学生まで 35 人の男の子が生活しています。うち 10 人は孤児で親が刑務所に入っているケースもあります。ほかは、少数民族の貧しい子供たちが通学のために入っています。政府の管轄でないので補助がなく、施設運営の人手や生活するための資金が不足しているとのことです。神父さんがひとりで面倒をみており、就寝場所や食堂など生活施設も手作りで簡易なものです。高卒が目標ですが、大学を目指して頑張っている子供もいます（現状、大学生が 1 名、短大生が 1 名）。



（ソンキー孤児院にて：ホーチミン市内）

1 月 28 日訪問の「ティンメイ孤児院」は、30 年間の歴史があり、生後間もない乳児から高校 1 年生まで、現在 36 人の子供（女兒がメインで男児は 6 歳まで）が生活しています。親に捨てられた孤児や、母親と一緒に保護されている子供たちです。母親も 11 名保護されています。修道院が母体でシスター 6 人が運営にあたっています。マザーテレサの教えで、貧しい人（特に、お母さんを助ける）が基本的な考え方です。4 階建ての施設は清潔に保たれています。食品、衣服、薬品の費用、学費、母親の出産費用など資金繰りが厳しいようです。当日は、学校へ行っていない 5 歳以下の子供たちが楽しい踊りで温かく我々を迎えてくれました。



（ティンメイ孤児院にて：ホーチミン市内）

同日に訪問した「マイトン孤児院」は、2006年6月設立で、40人の孤児（男児39人、女児1人）が生活しています。小学生から大学生まで全員通学しています（現在、大学生は6人）。前期に学年の成績トップ3に入った学業優秀な中学生も3人います。世話役の神父さんが2025年6月に亡くなったため、現在、当孤児院の卒業生2人（30歳前半）が仕事を辞めて、施設の運営を担当しています（彼らの今後の人生も課題です）。なお、2025年11月に、当施設の屋上のシャワールームの水漏れ防止工事の資金をベトナム子ども基金が寄付しました。当日は、昼食に戻ってきた子供たちから合唱、英語の歌の独唱、英語でのスピーチをいただきました。最後に奥田会員から「勉強して人生の可能性を開いてください」という挨拶がありました。



（マイトン孤児院にて：ホーチミン市内）

〔青葉奨学会訪問（1月28日）〕

ドンズー日本語学校を訪問し、ホーエ先生に面談。ホーエ先生はご高齢になられたが、相変わらずお元気そうな様子でした。

青葉奨学会経由で25年近く里親寄付をしてきたが、外国からの寄付を受け取り出来なくなり、我がクラブの里親寄付は別の形での奉仕に変えていく必要があります。



〔ベトナム山岳貧困地域子ども基金への訪問（1月29日）〕

ベトナム山岳貧困地域子ども基金（本部：ハノイ市）は、山岳地域の少数民族の貧しい子供たちに、2010年ごろから、食品（肉や魚）、被服を提供してきました。近年は、書籍や文房具の提供や学校施設の改修などに支援をシフトしています。基金は幅広い人々からの大小様々な金額の寄付で成り立っており、日系の現地企業からの支援もあります。2025年3月の当クラブからの現地訪問を機に、タイグエン省のルン・ホアイ分校に、ベトナム子ども基金を通じて、遊び場の屋根の改修費用を当クラブが支援した実績があります。先方からは、今後も、金額の大小を問わず寄付を受け入れたく、少数民族の子供たちの高校や大学への進学、海外へ留学する人材育成を目的にした支援への希望が述べられました。ベトナム少数民族の文化と日本文化の融合した小規模な図書館の設置アイデアがありました。



（ベトナム山岳貧困地域子ども基金の代表チャン・ダン・トゥンさんと（右から4人目）：ハノイ市内）

【ハノイ市リハビリ病院への訪問（1月30日）】

ハノイ市では、障害を持った子供のリハビリ病院を視察しました。ベトナム北米山学友会が支援活動に取り組んでいます。この病院は公立で、リハビリ専門です。14室のリハビリ治療室で1日300人が治療を受けています。そのうち2室が子ども専用で約100人が治療を受けています。自閉症の子供たちのリハビリでは織物や絵画でのリハビリが行われています。リハビリ機器の老朽化や、遠隔地から泊まり込みの付き添いでくる親の滞在費の負担が問題になっているとのこと。公立病院で財務状況は良くなく、寄付や支援を求めているとのことでした。



（ハノイ市リハビリ病院にて）

[ベトナム（南・北）米山学友会との懇親会]

夕方の懇親会では、ホーチミン市とハノイ市のそれぞれで、米山学友会の皆さんと楽しく交流いたしました。なお、1月29日、ハノイ市で、南北のベトナム米山学友会の経緯や現況に関して、ムイ先生（50年以上前に日本に留学）に詳しくお話をうかがいました。



（ムイ先生と面談：ハノイ市内の宿泊ホテルにて）

1月27日の夕方は、ホーチミン市中心部でベトナム南米山学友会の皆さま（ナム会長はじめ約10人）と懇親会をいたしました。ベトナム南米山学友会は、10年ほど前から孤児院の支援活動をはじめ、2024年に組織化（任意団体）されています。40歳から50歳代で、日本での大学留学や就職後にベトナムへ戻り、大学や現地企業で幹部として活躍され、独立されている方もいて、これからのベトナムを背負う人材が多いと感じました。視察団として到着後初めてのベトナム料理をいただき、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく交流できました。



（ベトナム南米山学友会との懇親会：ハノイ市内）

1月30日の夕方は、ハノイ市内のティエンクアン湖ほとりの素敵なレストランで、ベトナム北米山学友会の皆さま（7人）と懇親会を開きました。ベトナム北米山学友会は約10人で、団体化はされていませんが、30歳前後の比較的若いメンバーがハノイ市リハビリ病院の支援活動などに取り組んでいます。1月30日は金曜日でしたが、メンバーは仕事を休んで、午前は市内観光、午後はリハビリ病院へ訪問に同行していただきました。懇親会では、参加者全員が自己紹介をして、食事とお酒を楽しみながら、ワイワイと楽しく過ごしました。



（ベトナム北米山学友会との懇親会：ハノイ市内）

[ベトナム料理とハノイ市内観光]

今回の視察旅行では、ホーチミン市とハノイ市で、ベトナム料理をたくさんいただきました。フォー（米粉麺）、春巻き、バイン・ミー（ベトナム風サンドイッチ）など日本でも知られたメニューのほか、ハノイ名物のブン・チャー（ベトナム風つけ麺、少し甘めの付けダレ）など、様々なものを楽しみました。ブン・チャーは、1月29日のお昼に、オバマ元米国大統領が、ふらりと訪れたことで有名になったお店にも行きました（オバマ・ブン・チャーの店と言われています）。ベトナム料理は、さっぱりとした味付けで、日本人にもよく合う、美味しいメニューが多かったです。



(美味しくいただいた様々なベトナム料理)



(オバマ・ブン・チャーの店にて：ハノイ市内)

1月30日午前と、1月31日は、ハノイ市の市内観光をいたしました。世界遺産のタンロン遺跡（旧ハノイ城跡）では日本語ガイドで詳しい説明を受けました。ベトナム王朝時代の首都の城郭跡で、タンロンとは昇龍という意味です。ベトナム戦争時の地下司令部（防空壕）も保存され、見学できました。ベトナム軍事歴史博物館は38ヘクタールの広大な敷地にあり、15万点の展示物があり、ベトナム戦争関連の展示が見ものでした。トレイン・カフェは鉄道の線路沿いギリギリにあり、1日3便の列車を間近で（すれすれで）見ることができます。列車は時速10キロ台で通過時間は約3分ですが、迫力満点でした（武藤会員が列車に超接近して動画撮影をしていたため、みんなヒヤヒヤしました）。ホアロー収容所（フランス植民地時代に設置）と水上人形劇（コミカルな内容）も見学しました。



（世界遺産のタンロン遺跡:旧ハノイ城跡にて）



(トレイン・カフェにて：ハノイ市内)

【まとめ】

今回の視察で、当クラブとベトナム関係者（ベトナム子ども基金、ベトナム（南・北）米山学友会など）との長年の深い繋がりを感じました。ベトナムは日本にとって経済面や産業面などで重要なパートナーと思います。ベトナムは若年人口が多く経済成長の過程にありますが、貧困層や少数民族など課題も多いようです。

われわれは国際組織であるロータリークラブの一員であり、当クラブには、ベトナムで実際にビジネス展開されている方（武藤会員、佐々木会員、小関会員）もおられることもあり、ベトナムでの奉仕活動は取り組むべきテーマと考えます。ベトナム関係者との交流を強化し、ベトナムの現地視察訪問を継続し、一步一步、具体的な奉仕活動を進めていけるようにしたいと思います。

高橋浩明 記